

Title	中級の漢字語彙指導の試み：新聞講読科目の例を通じて
Sub Title	
Author	加藤, 奈津子(Katō, Natsuko)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2019
Jtitle	日本語と日本語教育 No.47 (2019. 3) ,p.63- 83
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	授業報告
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20190300-0063

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

中級の漢字語彙指導の試み

—新聞講読科目の例を通じて—

加 藤 奈 津 子

1. はじめに

『日本語と日本語教育 44号』から『日本語と日本語教育 46号』（慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター）の3号にわたり、中級の新聞講読科目での指導の試みを報告した。これらの報告において、語彙指導に関しては、45号で読解力を支える語彙力として漢字語彙の習得が欠かせないことを報告した。その報告の中で、授業での試みを通じて分かった点として、漢字語彙の学習には「理解」「拡大」「定着」のプロセスが大切であることを挙げた。しかし、「拡大」の指導方法には、語彙の提出範囲に関して課題が残っていた。そのため、2018年秋学期の授業計画を立てる際に、漢字語彙提出の基準について検討し、授業運営の変更を試みた。

本稿では、中級の新聞講読科目で漢字語彙を増やす指導についての試みを授業の実践報告を通じて報告する。

2. 問題意識

記事を選ぶ基準として統一テーマを設けるというやり方を数学期にわたり行った。テーマ設定の良い点は語彙の傾向に一貫性があり、同一テーマで頻出する単語に複数回触れることで、定着も期待できることである。一方で、テーマ性を優先したため、同じ分野の語彙を増やすことはできたが、授業の進度とともに語彙の難易度を上げるという積み上げを意図した順番での提出はできなかった。そのため、語彙数は増えたが、「新聞講読

5」を受講した学習者が次の中級後半などの段階に進んで文章を読む際に、その文体レベルの語彙に対応できる語彙力が身に着いていたかという点も必ずしもそうとは言えなかった。

テーマを基準に記事を選んで教材化する場合でも、学期初めと比べると徐々に記事の内容、語彙の難易度を上げて指導することは可能で、実際、修飾関係が複雑な文が含まれる記事を選ぶことで難易度を上げて教材を作成し、提出した。しかし、中級前半に適した内容、語彙を意識して語彙を選ぼうとしていたため、難解と判断した語彙を避けて記事そのものを扱わないことにしたり、語彙を既習のやさしい単語に入れ替えて記事を教材化したりすることがあった。語彙が中級前半の範囲内で増えたり、単語を入れ替えることで読解しやすくなった文章を読んだりすることは読解力の向上につながるため、語彙が中級前半で増えること自体には問題はないが、読解力の向上と語彙の関係を考える際に出てくる、文体や文型と語彙との関連には十分に対応してこなかった点には改善の余地があると思われた。

「新聞講読5」が対象とするのは、初級後半から中級前半に進んだ学習者で、書き言葉的な文章を読解する力をつけることが学習目標の一つである。そして、学習が進むにつれて内容と文体のレベルが徐々に上がり、学習者はそれに合わせて使用される文型、語彙の知識を身に着けていく。このように、文体、文型と語彙の指導は関連を持っており、文型によっては特定の語彙の使用が必要となるため、語彙の拡大の指導も文体、文型を意識しながら進める必要がある。更に、授業が進み、学期後半になると、中級後半を視野に入れて指導することにもなり、その指導においても文体、文型と語彙の指導の関連性は指摘できる。これまでの「新聞講読5」の授業では語彙の拡大指導にあたり、文体、文型と語彙の関連に関する視点が欠けていたため、語彙数は増えても中級後半に向けての語彙力の積み上げを図ることが難しかった。

そこで、中級後半に向けて語彙力を積み上げる形で語彙指導をするために、文体、文型と語彙の関連性を考慮するなら、語彙の提出範囲はどこまであるか

について検討することにした。語彙の提出範囲は授業が目標とする読解力の内容と関連があることを考えると、まず「新聞講読5」が到達目標とする読解力を明確にする必要がある。これについては、次の段階である中級後半の文章の読解準備に必要な力が身についていることを到達目標とすることができる。このように考えると、この目標を達成するのに必要な語彙まで、つまり中級後半の文体に合ったものとして使われている語彙までが提出範囲と言えるだろう。こうして到達目標と語彙の提出範囲が決まると提出順の決定も合理的に行えることになる。また、教材化にあたり、何を難解な語彙と判断するか基準も明確になるため、中級後半に進むために必要であるにもかかわらず、難解であることを理由にそれまで避けていた語彙も取り扱う対象となる可能性も出てくる。

2018年度秋学期の「新聞講読5」ではこのように到達目標を設定し、語彙の提出範囲を考え、それに基づいて記事の選択、記事の提出順など教材に変更を加えた。具体的な変更点については4「授業の変更点」で詳しく述べる。

3. 授業の枠組み

本稿は慶応義塾大学日本語・日本文化教育センター 日本語研修課程に設置された講読科目「新聞講読5」において、2018年度秋学期に行った授業の内容に基づいたものである。

3-1 授業の運営方法

2018年度秋学期の「新聞講読5」の授業は2016年度以降の授業と同様、①文構造の説明、②「テーマ設定・単語リスト・授業での指導」を連携する、という方法で運営した。

3-2 受講者（2018年秋学期）

受講者をレベル、漢字圏・非漢字圏、から見た内訳は以下の通りである。レベルは学期の初めに行う学習段階分けテストの結果による分け方に

表1 受講者の内訳 (19名)

	学習段階
レベル	初級後半 2名
	中級前半 16名
	中級後半 1名
漢字圏 非漢字圏	漢字圏 11名 非漢字圏 8名

表2 2018年秋学期 使用教材

回	記事名(新聞社名)	掲載年月日
0	『『食品ロス』削減 動く各社』(読売)	17年11/6
1	【再】「廃棄食品を飼料にリサイクル」(朝日)	17年1/31
2	【再】「冷凍食品 市場はホット」(朝日)	17年2/1
3	【再】「日本の消費で減 世界792の絶滅危惧種」(毎日)	17年2/2
4	【再】「工場野菜 じわり存在感」(日経)	17年7/29
5	【再】「受験生応援商品」(朝日)	17年1/27
6	【再】「日清、株価連動の社食」(日経)	16年3/18
7	【再】「世界遺産 温暖化で危機」(朝日)	16年5/27
8	【再】「ファミマが園芸用品」(日経)	16年3/21
9	【再】「喫煙による死者 世界で700万人」(日経)	17年5/31
10	【再】「獣医であり、廃棄食品から豚の飼料を作る経営者」(朝日)	17年1/31
11	【再】「管理職にならない正社員 小売・外食 制度新設」(日経)	17年1/20
12	「きょう世界禁煙デー」(朝日)	17年5/31

基づく。(表1参照)

3-3 使用教材

授業は全15回であるが、実質的な授業は12回で、表2では実質的な1回目の授業である3回目を便宜上、1回目とした。0回目はガイダンスである。記事名は新聞記事の見出しを記載した。(表2参照)【再】は過去

の学期で使用したことがある記事である。

*新聞社名は略称で記載。(朝) 朝日新聞社、(日経) 日本経済新聞社、
(読) 読売新聞社、(毎) 毎日新聞社。掲載年月日は西暦で記載。

4. 2018 年度秋学期の授業の変更点

2018 年秋学期の授業準備の段階で、まず、授業の到達目標を確認し、漢字語彙の提出範囲を決めた。それに基づいて、教材の記事の選定基準と提出順を変更し、ワークシートの内容に変更を加えた。

4-1-1 授業の到達目標の確認

2「問題意識」では、「新聞講読5」が到達目標とする読解力を中級後半の文章の読解準備に必要な力とし、中級後半の文体に合わせて使用されている語彙までを提出範囲と決めたことを述べた。ここでは、中級後半の文体レベルの読解を到達目標に設定した経緯について説明する。

当該科目は、初級終了の学習者が対象で、授業開始時の学習者の漢字、読解の力のレベルは、学期初めのレベルチェックテストを経てほぼ同程度である。授業では、中級の文体に触れ、中級語彙、文法項目を理解し、記事の内容を把握することが目標である。学習目標はシラバスに、「300 字くらいの新聞記事を読み、新聞の文体や言葉に慣れていくことによって日本語で新聞を読むことの基礎を作る。また、新聞でよく使われる中級の漢字・言葉・文型も習う。新聞記事を読んで、日本社会（日本人の働き方など）についての理解も深める。」と記載してある。このように、自分で日本語の記事が読めるようになる基礎を作ることが目標であるが、到達レベルの文法力、語彙の範囲など到達目標は具体的には示していない。つまり、授業開始時の漢字力、読解力のレベルが明確であるのに対し、学期末の到達レベルはそれほど明確ではない。しかし、到達点が明確でなければ、どの過程を経て積み上げていくべきかという授業の道筋も明確ではないと言える。したがって、語彙の提出範囲の設定における基本的な課題は、まず到達点を明確にする

ことであると思われた。到達点が設定されれば、そこに至るガイドラインを作ることが可能になり、それに沿って定着させたい語彙に焦点を当てれば良くなる。また、どのように語彙を積み上げればよいかを把握しやすい授業が行えることになり、学習者にとっても効率的な学習につながる可能性がある。

以上が、2018年秋学期の授業準備時に、「新聞講読5」の到達目標を「中級後半の文体、語彙に対応できる読解力を身につける」とした理由である。具体的には「新聞講読5」を修了した学習者が次に中級後半などの段階に進んだ時に、どのレベルの文体、語彙に触れることになり、また自らもどのようなレベルの語彙を身につけていることが求められるのかを示し、それに対応する準備ができてるように指導することを目指した。

4-1-2 到達学習項目

中級後半では、概念的な内容を伝える文が増えるため、文体レベルが上がり、漢字語彙も増える。その多くは初級で習う基本的な語彙では入れ替えられないものである。また、文体レベルが上がるに伴い文構造も複雑になり、長い文の中の一部を簡潔にする用法を持つ文型も使用されることがある。そのいくつかは動詞の意味を含んだ名詞の使用が必要なものがあるが、運用には高い語彙力が求められるため、文体と語彙が合致しない場合、不自然な文になることがある。更に、語彙が文構造を決めるというタイプのもも出てくる。このタイプの語彙は文章構造を理解しながら習得することが必要となる。以下で、中級後半に進むにあたり、身につけておきたい語彙を①文体レベル、②文型の運用、③文章構造の理解に分けて挙げる。

- ①文体レベルに合わせるために使用が望ましい語彙の例： 廃棄する（＊名詞として、「廃棄」）「深刻な」「依存度」「危険性」など
- ②中級後半の文型の使用上、必要になる語彙の例： 「Nに伴ってV／Nに伴うN」（例：健康被害に伴う医療費）などで使用する動詞や名詞
- ③文章の構造の理解に必要な語彙の例： 例「NがNを促す」、「NによってNを意識付ける」などで使用される語彙

4-2 教材の変更点

教材の授業の到達目標に合わせて語彙提出範囲が決まったため、それに基づいて記事の選定基準と提出順を変更した。また、ワークシートの内容にも変更を加えた。

4-2-1 記事の選定の基準の変更

中級前半から後半に向けて文体、語彙のレベルを上げて記事を読んでいくために、その過程を学習者が意識できる提出順を取ることにした。内容が徐々に難しくなる場合、文章全体の構成がはっきりした記事の方が負担が軽いと考え、「因果関係」を説明する記事を中心に、「原因と影響」「現象と背景」などの対応関係が読み取りやすいものを選んだ。この変更に伴い、「統一テーマの設定」ということは選定の基準にしないことにした。

4-2-2 学習項目から見た語彙の選定と記事の提出順

語彙の提出範囲に基づいて、記事を選び、記事の提出順を考えた際に、語彙のどの点に焦点を当てていたかについて述べる。記事と語彙の範囲の関係の説明するために、記事の中で中心となると判断した語彙を取り出し、表3にまとめた。

表3では提出目的と提出順の決定を説明するために、「焦点を当てた語彙」(語彙の積み上げの面)と、「構成に関わる語彙」(記事の構成の目的上、中心となる語彙)に分けて語彙を取り出した。

記事は、中級前半で必要な学習項目が中心のものから読み始め、中級後半で扱われる学習項目を含む記事に進む順で提出した。また、学期前半には担当者が書き直して教材化した記事を使用し、語彙のコントロールを行った。後半では中級後半の文体に近い記事をそのまま、あるいは一部を省略した形で提出した。授業の進行にしたがい、文体、語彙が変化することを意識することを通じて、学習者の自覚が進むことを期待した。以下、記事の提出順の決定を語彙の導入の基準の点から説明する。

表3 2018年秋学期 使用記事の主な語彙
 ＊黒字は複数回登場、下線は文法項目と関連があるもの

回	焦点を当てた語彙	構成に関わる語彙
0	<u>強化する</u> ・ <u>取り組み</u> ・賞味期限・消費期限・食品ロス	背景
1	廃棄する・食品ロス・生産する・栄養不足・製造する・高温・翌日・大量・苦しむ	
2	進化・共働き世帯・高齢者・需要・応える・食品メーカー・手軽な・冷凍食品・家庭向け・市場規模・少子化・影響・弁当向け・傾向・食卓向け・急成長する・開発する・子育て世帯・シニア層	目指す
3	消費する・木材・減少する・分析・消費活動・多様性・開発・消費者・生態系・影響・及ぼす・調達する	つなげる
4	提供する・天候不順・高まる・消費者・若い層・需要・拡大する・運営費	背景
5	記憶力・高める・効果・販売・食費・含む・受験生向け・連想する	結びつける 連想する
6	日清食品・提供する・身近な・向上・効果・上回る・下回る・登場する・再現する・質素な	狙う 意識付けする
7	危機・地球温暖化・影響・世界遺産・観光産業・温室効果ガス・削減・被害・取り組み・状況・観光収入・依存度・過度な・生態系・失う・登録	促す
8	取り扱う・シニア層・食育・関心・客層・主要な・占める・増加・消費者・志向・高まる・需要・開拓する	
9	＊5「ケーススタディ」を参照	
10	派遣する・(現実)に直面する・保全・建設・(免許を)取得する・余剰食品・提案する・関心・廃棄食品・開設する・飼育	
11	外食業界・昇進・育児・介護・優先する・認める・勤務地・職務・職種・限定する・新設する・人手不足・若い世代・多様化する・選択肢・深刻な・依存する・少子化・影響・採用する・困い込む・意味合い	背景 狙い
12	禁煙・自治体・対策・強化する・改正案・提出する・合意・死者・年間・危険性・取り組む・飲食店・登録する	目指す

①学期前半：0 から 5 回の記事の焦点

記事は担当者が書き直したものである。新聞の文体に慣れ、語彙の意味を理解しながら語彙数を増やすために、因果関係が一对一対応で単純に説明されている記事を扱った。「食」関連の「食品」など具体例が出ていれば意味が把握しやすい語彙を連続して登場させ、語彙の定着を図った。どの記事も文章構造自体が単純だったため、内容の分かりやすさに支えられて、難易度が低い語彙から徐々に語彙レベルの段階を上げることができた。因果関係を表す「背景」「狙い」などの語彙も繰り返し登場させた。「影響」に続いて、「影響が及ぶ」を出し、用法を拡大した。「需要」といったやや難しい語彙もこの段階で出し、「～層」「～向け」が繰り返し出るようにし、学期後半で内容が難しくなった時点で再度出てきても既習であると感じられるようにした。

②移行期：6、7 回の記事の焦点

語彙のレベルが内容に先だって、中級後半に向かいつつある移行期である。6回は文構造の理解に関わる語彙である「意識付けする」があり、語彙レベルが上がったが、文体はそれほどかたくなく、記事は同一の主体に関するものである上に、単純な対比があるため、語彙の入れ替えがなくても問題がないと判断し、記事をそのまま扱った。7回は「危機」「依存度」「過度な」などかたい表現が出ているが、内容は地球温暖化が世界遺産に与える影響を扱い、因果関係を平易な文で説明している。7回は、地名を始めとする固有名詞を避けるため、担当者が書き直して短縮した。

③学期後半：8 回以降の記事の焦点

文体と語彙レベルがともに中級後半というようにレベルが合致した記事を選び、担当者が書き直しをせず、記事をそのまま使用した。抽象的な用法で使用される語彙や文構造を決定する語彙を含むため、かたい文体と使用語彙の関連性を理解させる指導を行った。語彙のレベルは、「大変な」から「深刻な」、「子供を育てる」から「育児」、「貧乏な」から「貧困」のように上がっている。

上記以外で文法に関わる語彙として学期を通じて取り上げたものは以下の通りである。(表3では下線になっているものである。)

- ・～化する：強化(する)・多様化
- ・～性：多様性・危険性・多様化
- ・～度：依存度

4-2-3 ワークシートの変更点

授業の内容理解を確認するためのワークシートもタスクの内容に変更を加えた。

- ①言い換え問題：類義語などを見つけさせ、語彙拡大を図るタスクである。2018年秋学期以前は品詞を指示していなかったため、学習者が選択に迷ったり、品詞を理解した上での定着につながらなかったりすることがあったため、「同じ意味の言葉を探して書きなさい【名詞】」というような指示を入れた。
- ②内容をまとめる課題：文章全体の内容理解の助けとなるように、下線に適切な文を補充することで、内容が確認できる記述式の課題を取り入れた。学期半ばまでこの形式で書かせて、内容のまとめ方に慣れさせ、最終的には学習者が自分で記事をまとめられるように誘導した。以前はまとめのタスクとしてタイトル付けの課題を多く入れていたが、2018年秋学期は数回入れる程度にした。タイトル付けはキーワードの正しい把握の確認はできるが、文章レベルで書かせた方が学習者の理解度を知ることができると思ったからである。

5. ケーススタディ

文体、文型と語彙の関連を意識した語彙指導がどの程度学習者の語彙の積み上げに効果があったかをケーススタディを通じて考察する。2018年度秋学期は、学期末の到達目標に向けて、語彙提出範囲に基づき記事を選んで、提出順を考え、授業を進めた。この試みによって学習者が文体、文

型と語彙の関連を理解し、語彙力を通じて読解力を高められたどうかを見る例に、中級後半のかたい文体で書かれ、それに合ったレベルの語彙が多く使用されている9回目の記事を取り上げる。この記事は中級後半の文型、語彙が含まれているため、語彙の積み上げを意識させる目的で、担当者が記事に変更を加えることなく使用した。3-3「使用教材」で触れた通り実質的に扱った記事は12種類で、9回目は全体の2/3の時期に当たる。そのため、学習者に文の構造理解、文章全体の構成についての理解力が身につくについて、内容・文体のレベルを上げる準備が整っている時期と言える。この時期に読んだ中級後半レベルの記事の内容を学習者が文型と語彙の関連から理解していれば、文体、文型との関連を考慮し、語彙力を積み上げる指導をするという試みが読解力向上に意味があったと見ることができると考えられる。

本章では授業で焦点を当てた点を述べ、その後、学習者の様子から、授業の試みが読解力向上にどのように反映されたかを報告する。

5-1-1 教材①：記事の語彙面の特徴

たばこの害に関する世界保健機関（WHO）の報告書の内容を伝える記事である。（表4参照）焦点は喫煙と貧困の関係についての警告を世界禁煙デーに合わせて発表し、喫煙の害を訴えることである。同時に、環境に及ぼす影響に関する報告書も初公表した。常に喫煙の害を訴えるWHOが経済、環境面からとアプローチを変えてアピールする要旨をまとめている。

読解目標はWHOの基本的な狙い（たばこの害を訴えること）と、17年版における2方面からのアプローチ（経済面と環境面）とを分けて把握することである。「保健機関」であるWHOが喫煙のマイナス面を警告するために取った今回のアプローチは、たばこの害は単に個人の健康問題に留まらず、世界の中での貧困の問題や環境汚染にも結びついているとの視点を持つことを我々に求めている。このため、語彙も深い意味を読み取る必要があるものが使用され、それに合わせて文型、文構造が中級後半レベルの

表4「喫煙による死者 世界で700万人」

<p>【ジュネーブ=共同】①世界保健機関（WHO）は30日、喫煙による死者は世界で年間700万人に達し、その8割以上が低・中所得国に集中していると発表した。</p> <p>②喫煙は健康被害などをもたらし、貧困を生む原因になっていると警告している。</p> <p>③31日の世界禁煙デーに合わせ、たばこの害を訴えるのが目的。</p> <p>④これまで年間600万人としてきたが、最新の統計に基づき増やした。⑤健康被害に伴う医療費などで1兆4千億ドル（約155兆円）の経済損失を与えていると指摘。⑥たばこの課税強化と値上げが有効としている。</p> <p>⑦たばこが環境に与える影響に関する初の報告書も公表した。⑧吸い殻には発がん性物質を含む7千以上の有毒化学物質が含まれるが、1日に販売される150億本のうち100億本以上がそのまま廃棄されているとした。</p> <p>⑨WHOによると、喫煙関連の医療費は1人当たり約56ドルで、家計や各国の財政に大きな負担になっているとした。</p>
--

ものとなっている。例えば「(健康被害をもたらす低・中所得国の) 貧困」という語彙は「貧乏な」「貧しい」では入れ替えられないものである。また、「もたらす」が含意する因果関係は単純な原因・結果関係以上の内容を伝えるために使用されている。記事を読解する上で、内容と語彙、語彙と文の構造の関係を考えながら読む必要がある。次節で、内容と文構造の関係の説明においてどの点を語彙指導の焦点にしたかを述べる。

5-1-2 教材②：単語リスト、ワークシート

表5は予習の「単語リスト」と授業後提出する「ワークシート」である。

5-2 指導の焦点

授業での指導の焦点を「語彙」「文型と修飾関係の説明」「文構造の説明」に分けて述べる。

5-2-1 語彙

記事に使用されている語彙のうち、以下の〔 〕の中に挙げた語彙は中級後半の文体レベルに合うものである。

表5「単語リストとワークシート」

【単語リスト】 * 筆者注・以下の単語はすべて読み方が書いてあり、◇は短文を作成し、☆の単語は意味を調べることになっている。

一次の授業の記事の単語です。☆は意味を調べ、◇は文を作りなさい。

◇達する ◇低・中所得国 ◇もたらす ◇貧困 ◇警告する
 ◇訴える ◇統計 ◇経済損失 ◇指摘する ◇課税する
 ◇有効な ◇吸い殻 ◇有害化学物質 ◇家計
 ◇財政 ◇負担 ☆発がん性物質

【ワークシート】 * 筆者注：黒字の単語はワークシートにのみ載せたもので、単語リストには記載がない。下線の単語は単語リストとは提出の形が異なるものである。

I _____ の漢字の読み方を書きなさい。

最新 基づく 値上げ 初の 有害

II 記事の中から同じ意味や反対の意味の言葉を探して書きなさい。

* 筆者注：下線 _____ 部分はシートでは空欄で、下線上の単語は解答例。

① 貧しくて、生活に困ること ÷ 貧困 (名詞)

② 一番新しい ÷ 最新 [名詞] ③ 効果がある ÷ 有効な [形容詞]

III 喫煙と貧困との関係について、WHO の報告書の内容をまとめなさい。

【喫煙・医療費・死者・貧困・健康被害・経済損失・強化・訴える・含む・関連・負担・家計・財政・廃棄・有効な・年間】

* 筆者注： _____ のものは18年秋学期の教材で2度以上の登場のもの。

中級後半レベルの文体に合わせ、「医療」「死者」などが使用されている。「訴える」は文脈によって用法が異なるため、文章内容と照らし合わせて意味を確定することになる。「家計」と「財政」は使用する対象により使い分けがあることを理解しなければならない。また、「喫煙」は「喫煙による死者」のような修飾関係や、「喫煙は健康被害をもたらす」という表現では「AはBをもたらす」という文構造を成り立たせるために使用されている。

学習者には単語リストの予習と授業での説明によって、既習の類義語と

の用法の違いを把握させ、文体レベルと語彙の関連性を確認させた。授業では、文型と語彙の関連性を説明しながら修飾関係を説明し、文構造全体の中で語彙がどのように機能しているかを指摘して、文型と語彙の関連への気づきを促した。

5-2-2 文型や修飾関係の説明

授業では文型や修飾関係の説明をしたが、その中から文体と語彙の関係に関わるものを下記で挙げ、授業で焦点を当てた点について述べる。

*筆者注: [] は担当者が説明時に補った部分。以下の①～は授業中に記事の文に振った整理番号で、授業ではこれに従って順番に説明した。

記事には中級前半と後半で扱われる文型がいくつか登場する。以下、記事での登場順に例を挙げる。下線は中級後半の文型である。

・「NによるN」「Nに伴うN」「Nに関するN」

①…WHOは「喫煙による死者」は世界で年間700万人に達し、その8割以上は低・中所得国に集中していると発表した。

*死亡の原因を入れて名詞化するために「NによるN」の文型が使用されている。「Nによる」に続く名詞は「死者」が適切であり、「死んだ人」で置き換えると不自然となるため、文型の運用と語彙の関連性を指摘した。

⑤[WHOは]「健康被害に伴う医療費」などで1兆4千億ドル(約155兆円)の経済損失を与えていると指摘。

*「健康被害」が「医療費」の発生原因であることを示すために使用されている「Nに伴うN」の文型は、かたい文体で用いられる。したがって、

語彙レベルもそれに合ったものが要求される。

- ⑦〔たばこが環境に与える影響〕に関する初の報告書も公表した。

*〔たばこが環境に与える〕によって修飾されている「影響」という名詞が、更に「報告書」を修飾しているという重層的な修飾関係が指摘できる。WHOが「報告書」を公表したことと、その「報告書」の内容を一つの文にするため、「Nに関するN(報告書)」の文型が使用されている。

5-2-3 文構造の説明

語彙と文構造の関連について説明した例を以下で挙げる。

*筆者注：〔 〕の中は説明時に、担当者が補足した部分である。

- ②喫煙は健康被害をもたらし、…〔貧困を生む原因〕になっている。

*「～が～をもたらす」を使った文の構造の中では、「～が」の前の名詞（「喫煙」）が原因を表す。では、原因を「たばこを吸うこと」で置き換えられるかというところではなく、「もたらす」というかたい表現と合わなくなるため、ここでは「喫煙」という語彙の使用が適切である。

- ⑧吸い殻には〔発がん性物質を含む〕〔7千以上の〕有毒化学物質が含まれるが、…。

*「吸い殻には〔有毒化学物質が含まれる〕」という文構造に、更に「発がん性物質を含む」が入れ込まれている。この重層的な関係は「発がん性物質」という語彙によって明確に説明されている。有毒化学物質の一部に「がんを発生させるような物質」が含まれているという関係の説明は「発がん性物質」という名詞の使用によって成立しており、このよう

な適切な語彙の使用がなければ、「～が～を含む」が重層的に修飾している関係性を正確に表現することは難しい。

授業では、5-2-2 と 5-2-3 で挙げた例の説明を通じ、文型の運用や文構造と語彙の使用には関連性があることを示し、かつ文型によっては語彙レベルに制約があることも指摘した。

5-3 指導の試みと学習目標の達成についての報告

5-3-1 到達目標と評価方法の関係

2018 年秋学期の「新聞講読 5」では、文体、文型と語彙の関連性を考慮して、語彙力を積み上げる指導をする上での語彙の提出範囲を検討し、それにあたって、学期末に中級後半など次の段階に進める力をつけることを授業の到達目標に設定した。読解科目としての到達目標は中級後半レベルの内容を読解する力がついていることであり、語彙面而言えばその読解力を支える力がついていることである。この点から見て中級後半に移行する語彙力が積み上げられているかどうかが目標達成度を評価する指標となると考えられる。9 回目の記事の読解に関しては、記事の中心となる事柄を文型と語彙の関係から正確に読み取っているかどうかを、語彙力の積み上げが学習者の読解力の向上に役立ったと判断する基準とすることにした。

この評価の指標としては「内容のまとめの課題」の記述内容を見るのが適していると考えられる。その理由は以下の通りである。この課題の要求に応え、必要な要素を入れてまとめを書くためには、文型と語彙の関係を理解した上で、修飾関係、文構造を正しく把握することが必要である。この把握ができていれば、記事の中心となる事柄が理解できるため、課題で要求されている部分のみ取り出せることになる。そして、それらを正確に文章の形で表すためには、文型と語彙の関連を能動的に意識しつつ適切に組み合わせて構築しなければならない。これらの条件を満たした文章が

書けていれば、中級後半に向けて、文体、文型と語彙の関連を理解した上での読解力が身についたと判断できるからである。次節で、学習者の記述を分析し、指導の試みが読解力にどう反映されたかについて報告をする。

5-3-2 ワークシート：「内容のまとめの問題」

質問文は「喫煙と貧困との関係について、WHO の報告書の内容をまとめなさい。」である。記事には「喫煙と貧困」、及び「喫煙と環境」の関係が書かれているが、中心となる事柄は「喫煙と貧困」の因果関係である。学習者の解答例を (1) 必要な要素がある (2) 必要な要素が不足している (3) 課題の意図を理解していない、に分けて説明する。

*筆者注：内容は学習者の記述のまま。説明のために下線を引いた。

(1) 必要な要素が含まれている例

喫煙と貧困の関係について「健康被害に伴う医療費」の負担という因果関係を入れ、その貧困がどの地域（「低・中所得国」）に集中しているかが書かれていれば、記事の中心となる事柄を正しく把握していると見ることができる。加えて、「WHO の報告書の内容」をまとめるという条件を満たすために情報源も書かれていると、内容のみならず形式も整うことになる。

例① WHO は、年間 700 万人の喫煙による死者の 8 割以上が低・中所得国 に集中していることを発表して、喫煙が健康被害をもたらす、その医療費などで、貧困を生む原因になっていると警告している。(非漢字圏・中級後半)

*この学習者は、記事の「喫煙による死者は世界で年間 700 万人に達し、その 8 割以上」という部分を「年間 700 万人の喫煙による死者の 8 割以上」というように、文型と語彙の関連を意識しつつ適切に組み合わせて再構築している。必要な要素を入れ、形を整えて、記事の中心となる事柄が一文にまとめられている。

例② WHOの報告書によると、喫煙は貧困を生む原因になっているようだ。なぜなら、喫煙の健康被害のための医療費は高いので、特に低・中所得国の家計や各国の財政に負担になっているからだ。(非漢字圏・中級前半)

* 因果関係を正しく把握しているが、例①の文章に比べ、語彙レベルと記事の内容のレベルとのバランスが良くない。記事の内容や文体のレベルと同様のレベルの文章によって課題文に対する解答を書くためには、キーワードを適切に文構造に入れなければならない。それには文体、文型と語彙の関係を考慮し、文型と語彙の最適な組み合わせをして、読解した内容を再構築することが必要である。この学習者は、読解した内容を再構築する力がまだ十分ではなく、理解して拡大した語彙が自分のものとして定着する過程にあると見ることができる。

(2) 必要な要素が不足している例

喫煙と貧困の因果関係に「健康被害に伴う医療費」の要素を入れているが、「低・中所得国」という要素が欠けているため、貧困がどの地域に集中しているかという視点が不足している。また、WHOの報告書をまとめる形式になっていないものもあった。

例③ WHOの報告書によると、喫煙は健康被害などをもたらし、このような健康被害に伴う医療費で1兆4千億ドルの経済損失を与えているそうである。そのため、WHOは喫煙が貧困を生む原因になっていると警告している。(非漢字圏・中級前半)

例④喫煙による健康被害に伴う医療費は各国の財政にはもちろん、人々の個人的な家計にも大損失を与えているために、貧困を生むのである。(非漢字圏・中級前半)

*例③④は「低・中所得国」の視点が欠けているため、喫煙と貧困の因果関係が浮き上がってこない。

例⑤喫煙は健康に害を与える。だから、喫煙関連の医療費は家計と各国の財政に大きな負担になっている。(漢字圏・初級後半)

*「喫煙は健康に害を与える」に続き、「喫煙関連の医療費」と書いているため、「健康被害に伴う医療費」と読み替えられるため「健康被害」という語彙が含まれていなくても内容理解度が低いとは言えないが、この文からは「低・中所得国」に集中している点の理解ができていないか確認できない。

(3) 課題の意図を正しく理解していない例

次の例は課題として「喫煙と貧困」の関係の説明を求められているにもかかわらず、「環境」の点も入れている例である。課題文の意図が理解できていないため、記事全体のまとめに近いものとなっている。

例⑤ WHOによると喫煙は健康被害などをもたらし、喫煙関連の医療費も家計や各国の財政に大きな負担になっている。また、たばこは環境に影響を与える。それで貧困を生む。(非漢字圏・中級前半)

*文章力が不足している可能性もあるが、「環境に影響を与えた」ことも「貧困」の原因をなっていると理解していると見ることもできる。また、「低・中所得国」の視点も欠けている。

例⑥世界禁煙デーに合わせ、WHOは喫煙と貧困や環境などの関連を警告しました。喫煙は健康被害をもたらし、貧困を生む原因になってい

る。一方、7000以上の有害化学物質を含む吸い殻が環境に影響も与えている。(漢字圏・中級前半)

*「医療費」、「低・中所得国」の視点が欠けている。また、「環境」についても記述している。

記事の中心的な事柄である「喫煙と貧困の関係」をまとめるためには、必要な要素を因果関係が正しく反映されるように入れなければならない。上記の記述例のうち、(2)と(3)の学習者の記述には、「健康被害」に関する語彙は含まれているものの、それ以外の必要な要素が欠けていて、「喫煙と貧困の関係」まで正確に把握するには至っていない。また、「環境」という不要な要素が入っていた。

9回目の記事の読解において、中級後半に向けて、文体、文型と語彙の関連を理解した上での読解力が身についたと判断できるのは(1)で挙げた「必要な要素が含まれている例」の学習者であった。(1)の学習者は文型と語彙の最適な組み合わせをして、読解した内容を再構築することができていた。このケースを見ると、語彙力の積み上げは学習者の読解力の向上に役立ったと言えよう。また、2018年秋学期における授業の試みの効果の点から見ると、到達目標を中級後半の文章の読解準備に必要な読解力を身につけることに設定し、語彙の提出範囲を決めるという試みにも意味があったと見ることができるだろう。

ただ、(2)と(3)の学習者の場合、記事の中心となる事柄が適切に理解できていないのは語彙力が十分に積み上がっていないことだけが原因とは言えないだろう。文法力が不足している可能性もある。読解において語彙力があれば内容理解ができるわけではないので、文型との関連を理解することも必要である。実は、必要な要素が欠けている記述例の分析からこそ、どこに学習者のつまずきの原因があったかが見えてくるのではないだ

ろうか。その意味で、文型と語彙の関連を意識させる語彙指導のやり方は、教師が学習者の読解力向上の過程をより細かく観察し、適切な指導をするために役立ち、それによって文章読解力の向上に向けて、より具体的な指導をすることも可能にするとと思われる。

6. おわりに—感想として

2018年秋学期の授業において、学期末の到達目標を決め、語彙の提出範囲を設定したことによって、読解指導において語彙指導のみが単独で効果を上げるのではなく、文型との関連を理解させる指導が必要であることが分かった。また、読解力が向上した学習者の記述の分析を通して、理解して拡大した語彙を学習者が自分のものとして定着させる過程を見ることができた。一方、十分な読解力がまだ身につけていない学習者の記述内容を分析することによって、今後の指導に必要な点が浮かび上がってきた。2018年度秋学期の授業での試みには、語彙範囲の決定、評価指標の設定などの点でまだまだ十分ではない部分があった。今後、より効果的な読解指導ができるよう、改善を加えていきたい。

謝辞

新聞講読科目の授業運営につきましては日本語・日本文化教育センターの村田年先生にご助言いただきました。心より御礼を申し上げます。

参考文献

- 「中級日本語 下」(東京外国語大学 留学生日本語教育センター 編著) 2018年4月25日 新装改訂版 第3刷 発行
加藤奈津子 (2017) 「中級の語彙指導の試み—新聞講読科目の例を通じて—」『日本語と日本語教育』慶応義塾大学日本語・日本文化教育センター 45号